

2014年度 環境活動レポート

(対象期間2014年1月～2014年12月)



株式会社イノウエプラスチック

発行日： 2015年3月15日

改定日： 2015年5月25日

I. 事業活動の概要

1. 事業所名及び代表者氏名

株式会社 イノウエプラスチック

代表取締役 里井 雅典

2. 所在地

【本社・本社工場】兵庫県姫路市別所町家具町126番地の10（認証登録範囲）	2,229㎡
【第二工場】兵庫県姫路市別所町家具町33番地の6（認証登録範囲）	902㎡
【第三工場】兵庫県姫路市別所町家具町25番地（認証登録範囲）	907㎡
【佐用工場】兵庫県佐用郡佐用町豊福字下モ茶屋53-1（認証登録範囲外） （佐用工場については、現在操業停止中）	1500㎡
【佐賀工場】佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲3162-12 （佐賀工場については、現在操業停止中）	5070㎡



3. 事業内容(対象範囲)

工業用プラスチックの二次加工販売
・半導体洗浄装置の樹脂部門の加工
・局排ダクトの設計、製作、施工、メンテナンス
・精密機械加工(エンジニアリングプラスチック)等々

4. 事業の規模（2014年度）

従業員数 58名

年間売上高 13.2億円

5. 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者
総務部品質管理課 深山 幸信

EA-21推進事務局 担当者
総務部 萩尾 雅子

連絡先 TEL：079-253-7755
FAX：079-253-7775
E-MAIL：inouep77@chive.ocn.ne.jp

6. 事業年度：1月～12月

株式会社 イノウエプラスチック

環境方針

いま地球は、わたくしたち人類によって蝕まれ、人間に例えるならば、著しく健康を損なった重病人状態です。その症状は集中豪雨・干ばつ・異常高温・異常低温・土壌・地下水汚染など多岐にわたっています。

この症状を救えるのも、わたくしたち人類です。従来の大量消費・大量廃棄を反省し、地球にやさしい行動への転換が求められています。

弊社は石油など天然資源を原料とする各種プラスチックならびにゴム類の加工を事業としていることを踏まえ、「地球環境と新たな共存」を通じて社会へ貢献を目指し、以下に基づき環境保全活動に取り組めます。

(1) 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守いたします。

(2) 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

①地球温暖化防止のため、電力および化石燃料の使用量削減に努め、二酸化炭素の排出量の削減を目指します。

②廃プラスチックなどの廃棄物の削減とその再資源化に努めます。

③水使用量の削減に努めます。

④化学物質の使用量の削減に努めます。

⑤グリーン購入の推進を図ります。

⑥環境保護により製品を提供する為の技術提供をお客様へ行います。

⑦地域での環境活動への積極的に参加します。

(3) 環境方針は、教育の機会および社内掲示等で、当社内で働く全ての人々に周知します。

(4) この環境方針は、一般の人々に公開します。

制定日：2009年 9月15日

改訂日：2013年 1月 6日



代表取締役社長

里井 雅典

Ⅲ. 過去の環境負荷の実績

取組み事項			2008年	2009年	2010年度	2011年	2012年
[1] 二酸化炭素排出量の削減			329,491kg-CO ₂	255,744kg-CO ₂	336,032kg-CO ₂	331,045kg-CO ₂	307,980kg-CO ₂
内 訳	①電気使用量の削減		481,681kwh	352,123kwh	509,713kwh	550,409kwh	509,713
	②自動車燃料 使用量の削減	1) ガソリン	12,917	16,079L	11,819L	11,095L	18,240L
		2) 軽油	31530L	22,847L	30,207L	21,949L	17,597L
[2]	廃棄物の削減	①一般廃棄物量	4,800Kg	定量契約にて適正処理を行っている			
		②産業廃棄物量	45,420	42,560kg	35,940Kg	38,550kg	40,700kg
		再生率の向上 (廃プラスチック)	46,850kg=48%	22,280kg=32%	25,950kg=39%	33,850kg=47%	36,570kg=47%
[3]	水資源使用量の削減	年間水資源総 使用量	1,003m ³	940m ³	840m ³	991m ³	991m ³
[4]	化学物質使用 量の削減		-	-	123.904kg	化学物質の使用 無	65.14kg

IV. 環境目標

取組み事項		2012年度 (実績値) 基準値と単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
		実績	目標	目標	目標	目標
[1]	二酸化炭素排出量の削減	CO ₂ 排出量 306,980 kg-CO ₂	1%削減 (303,910kg-CO ₂)	2%削減 (301,820 kg-CO ₂)	3%削減 (298,740 kg-CO ₂)	4%削減
内 訳	①電気使用量の削減	485,449 kwh	1%削減 (480,595kwh)	2%削減 (477,919 kwh)	3%削減 (470,885 kwh)	4%削減
	②自動車燃料使用量の削減	1) ガソリン	1%削減 (18,058L)	2%削減 (17,875L)	3%削減 (17,6935L)	4%削減
		2) 軽油	1%削減 (17,421L)	2%削減 (17,245 L)	3%削減 (17,069 L)	4%削減
		17,597 L				
[2]	廃棄物の削減	①一般廃棄物量 4,800 kg(計算値)	定量契約にて適正処理を行っている			
		②産業廃棄物量の削減 40,700 kg	1%削減 (40,293kg)	2%削減 (39,886kg)	3%削減 (39,479kg)	4%削減
		再生率の向上 (廃プラスチック) 36,570kg=47%	1%向上	2%向上 (35,838kg)	3%向上 (35,473kg)	4%向上
[3]	水資源使用量の削減	年間水資源総使用量 991m ³	1%削減 (981m ³)	2%削減 (971m ³)	3%削減 (961m ³)	4%削減
[4]	化学物質使用量の削減	65.14kg	1%削減 (64.49kg)	2%削減 (63.84kg)	3%削減 (63.19kg)	4%削減
[5]	グリーン購入	97.10%	1%向上	2%向上	2%向上	2%向上
[6]	環境保護により製品を提供する為の技術PR	鉛フリー素材の使用とPR	鉛フリー素材の使用とPR	鉛フリー素材の使用とPR	鉛フリー素材の使用とPR	鉛フリー素材の使用とPR
[7]	環境保全活動の取組み	数値化不可の為、設定せず	周辺地域の清掃 (毎朝)	周辺地域の清掃 (毎朝)	周辺地域の清掃 (毎朝)	周辺地域の清掃 (毎朝)

※当社の事業年度は、1月～12月

凡例) ○達成、△やや未達成、×未達成

(注) 環境方針⑥環境保護により製品を提供するための技術提供をお客様へ行います。

上記については、来年度の課題とする。

- 1) 再生率の定義：廃棄されたプラスチックの内、リサイクル業者へ買い取ってもらうプラスチックの比率を指す
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は、関西電力(株)公表の2011年度値0.450 kg-CO₂/kWhを使用した。

V. 環境活動計画

2014年度 環境目標	実施事項
〔1〕 二酸化炭素排出量の削減 2012年度比 2%削減	① 電気・ガソリン・軽油の使用量削減により排出量削減を図る
① 電気使用量の削減 2012年度比 2%削減	① 未使用時の電気消灯の徹底 ② 電力不要時の負荷遮断 ③ 節電シールの表示 ④ 空調の温度管理（暖房：24℃、冷房：27℃）
② 自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減	① アイドリングストップ ② 営業車両に「エコドライブ実施中」の掲示
〔2〕 廃棄物の削減 ① 一般廃棄物量…推定4,800kg（定量契約）であるが、右記の目標を行う。 ② 産業廃棄物量（プラスチックくず） 2012年度比 2%削減 ※プラスチックくずの再生率の向上 2012年度比 2%向上	① ミスコピーの防止 ② 裏紙の利用 ③ ダンボール箱は可能な限りリサイクル・リユースにまわす ① 歩留率の向上 ② PVC・PP・PC・PET・アクリは可能な限りリサイクルにまわす
〔3〕 水資源使用量の削減 2012年度比 2%削減	① 節水シール等の表示と励行
〔4〕 化学物質の使用量の削減	出来る限り在庫をもたない。 現在保有しているものは大切に使う。
〔5〕 グリーン購入	材料を買うときは出来る限り鉛フリー商品を選択するようにする。事務用品等の消耗品は適合するものを購入する。
〔6〕 環境保護により製品を提供するための技術提供	安定剤に鉛が入っていない商品（鉛フリー商品）の使用とPR
〔7〕 地域での環境活動への積極的参加	① 従業員等への教育訓練の実施 ② 地域の清掃の継続 ③ 消費者等への情報提供や啓発活動の実施

VI. 環境活動の実績

取組事項			2014年度実績
〔1〕	二酸化炭素排出量の削減		307,301kg-CO ₂
内 訳	①電気使用量の削減		617,824kwh
	②自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減	1) ガソリン	17,941.49L
		2) 軽油	20,804.3L
〔2〕	廃棄物の削減	①一般廃棄物量 推定4,800kg(計算値)	定量契約にて適正処理
		②産業廃棄物の削減	46,880kg
		再生率の向上	49,560kg=58.56%
〔3〕	水資源使用量の削減	年間水資源 総使用量	1,020m ³
〔4〕 化学物質の使用量の削減			30.04kg
〔5〕 グリーン購入			82.30%
〔6〕 環境保護により製品を提供するための技術提供			情報提供は毎日の営業活動の中で展開している
〔7〕 地域での環境活動への積極的参加			毎朝実施出来た

当社事業年度は、1月～12月

(注) 環境方針⑥環境保護により製品を提供するための技術提供をお客様へ行います。
上記については来年度の課題とする。

- 1) 再生率の定義：廃棄されたプラスチックの内、リサイクル業者へ買い取ってもらうプラスチックの比率を指す
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は、関西電力㈱公表の2011年度値0.450kg-CO₂/kWhを使用した。

VII 取組結果の評価

〔1〕 二酸化炭素排出量の削減

2012年度 1～12月実績	2014年度 年間目標	目標率 (2012年度比)	2014年度実績 (1～12月)	結果 (2012年度比)
307,980 kg-CO ₂	301,820 kg-CO ₂	2%削減	374,275 kg-CO ₂	121.5% (21.5%増加)

二酸化炭素排出量の主な構成要素は下記表による

2012年度 1～12月実績	2014年度 年間目標	目標率 (2012年度比)	2014年度実績 (1～12月)	結果 (2012年度比)
電気 485,449 kwh	475,400 kwh	2%削減	617,824 kwh	127% (27%増加)
ガソリン 18,240 L	17,875 L	2%削減	17,942 L	98.4% (1.6%削減)
軽油 17,597 L	17,245 L	2%削減	20,805 L	118.2% (18.2%増加)

<コメント>

2014年は、年間売上高が24.5%増加（昨年比）した分エネルギーの消費が軒並み多くなり、二酸化炭素排出量は21.5%増（2012年基準年度比）となった。車輛燃料はガソリンにおいて少しだけ削減できたがトータル（ガソリン+軽油）で増加となった。

また、電気使用量は27%の増加（基準年2012年度比）となった。その理由として2013年8月から増築した第二工場が今年は通年において本格稼働したこと、工事物件増に伴う第三工場での熱溶接加工の増加が要因として挙げられる。

	ガソリン	軽油	合計
2008年(参考年)	12,917	31,530	44,447
2012年(基準年)	18,240	17,597	35,837
2013年	15,651	17,246	32,897
2014年	17,942	20,804	38,745

(単位:L)

-19.4%
-8.2%
17.8%

参考データ

2012年度			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
電力	kWh	本社	29,351 @161.0	39,067 @155.0	25,555 @110.0	25,092 @110.0	23,391 @115.0	25,951 @101.0	27,586 @101.0	33,899 @129.0	33,796 @162.8	28,007 @137.2	26,687 @157.8	25,986 @110.8	344,368
		第二	9,162 @50.0	11,234 @47.0	8,796 @41.0	4,093 @20.0	3,585 @17.0	4,125 @18.0	6,000 @27.2	6,313 @34.8	7,639 @39.7	4,416 @25.5	4,457 @18.5	1,970 @7.8	71,790
		第三	5,198 @27.0	11,849 @47.0	9,029 @42.0	7,344 @34.0	4,563 @19.0	3,900 @16.0	1,174 @11.6	1,288 @12.6	2,926 @16.6	4,412 @25.3	8,215 @35.6	9,393 @39.5	69,291
		合計	43,711 @79.3	62,150 @83.0	43,380 @64.3	36,529 @54.7	31,539 @50.3	33,976 @45.0	34,760 @46.6	41,500 @58.8	44,361 @73.0	36,835 @62.7	39,359 @70.6	37,349 @52.7	485,449 @61.8
		平均値													

2013年度			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
電力	kWh	本社	22,808 @133.8	32,720 @132.7	26,787 @129.6	26,637 @121.9	23,623 @115.4	28,452 @127.4	29,803 @156.0	37,158 @173.2	32,628 @164.8	25,653 @117.7	25,112 @102.3	29,937 @135.9	341,318
		第二	6,492 @36.0	6,556 @24.9	6,972 @28.9	6,102 @25.7	3,699 @16.4	3,685 @15.9	6,518 @34.6	10,305 @50.5	11,163 @56.9	12,393 @57.9	13,311 @50.9	17,077 @76.9	104,273
		第三	2,952 @15.0	8,700 @28.7	6,799 @32.3	4,768 @22.2	3,618 @21.1	3,021 @14.0	1,809 @9.9	2,214 @10.7	5,722 @8.8	3,661 @16.8	4,505 @17.4	8,201 @33.6	55,970
		合計	32,252 @61.6	47,976 @62.1	40,558 @63.6	37,507 @56.6	30,940 @51.0	35,158 @52.4	38,130 @66.8	49,677 @78.1	49,513 @76.8	41,707 @64.1	42,928 @56.9	55,215 @82.1	501,561 @64.4
		平均値													

2014年			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
電力	kWh	本社	27,581 @134.4	35,581 @125.8	25,390 @109.9	24,268 @107.9	22,524 @107.8	26,475 @111.0	28,994 @127.0	36,186 @163.2	34,334 @148.6	27,962 @115.1	28,003 @119.5	31,292 @135.6	348,590 125.5	
		第二	15,972 @75.2	22,430 @79.4	13,796 @59.2	9,242 @40.8	5,949 @27.8	9,136 @36.9	12,111 @51.3	16,119 @72.9	16,218 @70.9	13,457 @57.1	14,815 @60.4	16,707 @69.8	165,952 58.5	
			第三	8,280 @38.1	17,661 @58.7	13,575 @61.4	11,222 @38.2	6,987 @28.4	2,838 @13.6	3,792 @19.2	7,114 @34.6	5,854 @30.4	5,846 @23.9	8,476 @32.8	11,637 @49.5	103,282 35.7
		合計		51,833 @82.6	75,672 @88.0	52,761 @76.8	44,732 @62.3	35,460 @54.7	38,449 @53.8	44,897 @65.8	59,419 @90.2	56,406 @83.3	47,265 @65.4	51,294 @70.9	59,636 @85.0	617,824 73.2
		平均値														

①電気使用量の削減

2012年度 1～12月実績	2014年度 年間目標	目標率 (2012年度比)	2014年度実績 (1～12月)	結果 (2012年度比)
485,449 kWh	475,400 kWh	2 % 削減	617,824 kWh	127.3% (27%増加)

<コメント>

2014年度の電気使用量は2012年度比(基準年度比)で27%増となったが、その主な原因として、第二工場増築後、初めての通年稼働を行ったことがあげられる。通年稼働の実績は、今年が初めてで前例がないので、参考として下記期間の算出データを分析のもととした。

増築前 2013年1月～7月までの7ヶ月間の月平均 5717.71kWh



2.24倍

増築後 2013年8月～12月までの5ヶ月間の月平均 12849.8kWh

この比率と受注増による稼働時間の増加を考慮に入れたうえで2014年度の第二工場の消費電力量を評価すると妥当な数値とみることができる。

また、第三工場の電気使用量は2012年度比(基準年度比)の約1.5倍増となっている。月別の使用量から読み取れるのは、工事物件の受注増に伴う内作加工物(具体的には局排外への溶接加工)の増加が起因していると考えられる。

～参考～

年度 工場別	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
本社	359,172	251,841	361,600	349,819	344,368	341,318	348,590
第二工場	108,107	49,095	72,224	96,315	71,790	104,273	165,952
第三工場	14,402 (稼働3ヶ月)	51,187	73,889	104,275	69,291	55,970	103,282
合計	483,689	352,123	507,713	550,409	485,449	501,561	617,824

(単位:kWh)

◆ 全工場総使用量の対比 (2010年からの推移)

2010年 全工場	507,713 kWh		約8.4%増加
2011年 全工場	550,409 kWh		約11.4%削減
2012年 全工場	485,449 kWh		約2.8%増加
2013年 全工場	501,561 kWh		約23.2%増加
2014年 全工場	617,824 kWh		

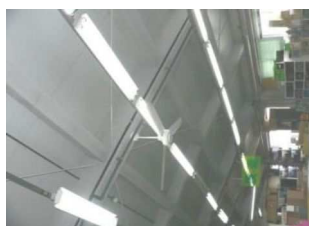
◆ 労働時間当たりの平均値での対比 (2010年からの推移)

2010年 全工場	62.4 kWh		約4.8%増加
2011年 全工場	65.4 kWh		約5%削減
2012年 全工場	61.8 kWh		約4.2%増加
2013年 全工場	64.4 kWh		約14%増加
2014年 全工場	73.4 kWh		

東日本大震災後は関西電力からの節電要請もあり、全社員が意識を持つことで省電力に取り組んだ。

<主な取り組み内容>

- 1) 昼休み稼動していない部署は全工場において消灯を徹底した。(2008年から継続中)



《消灯時》

- 2) 節電や設定温度を守る為、啓発ステッカーを各電源スイッチに掲示した。(2008年から継続中)



- ・2009年5月より緑のカーテン導入



- ・2011年12月より第三工場の照明をLED電球に交換した。
- ・2012年12月より本社工場3Fの半数の照明をLED電球に交換した。
- ・2012年12月より事務所1Fの半数の照明をLED電球に交換した
- ・2014年9月より熱吸収率の低い屋根に改装した。



②燃料使用量の削減

2012年度 1～12月実績	2014年度 年間目標	目標率 (2012年度比)	2014年度実績 (1～12月)	結果 (2012年度比)
①ガソリン 18,240 L	17,875 L	98% (2%削減)	17,942 L	98.4% 1.6%削減)
②軽油 17,597 L	17,245 L	98% (2%削減)	20,805 L	118.2% (18.2%増加)

<コメント>

車輛燃料はガソリンの部門ではわずかに削減をしたが、(2012年基準年度比) 軽油使用量が増え、トータルでは昨年度よりも17.8%増加した。売上高の増加に伴い営業機会が増えたと考える。また現地の取付工事の受注も多く各現場間での物資・スタッフの移動も増加した事も合わせて考えられる。

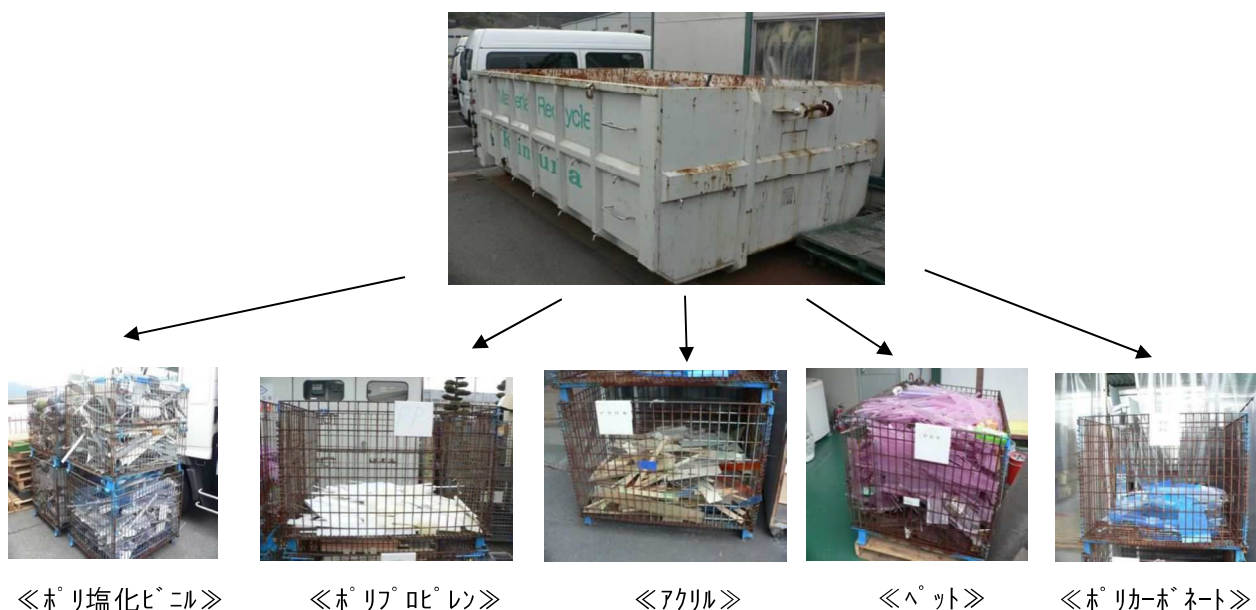
〔2〕 廃棄物の削減

2012年度 1～12月実績	2014年度 年間目標	目標率 (2012年度比)	2014年度実績 (1～12月)	結果 (2012年度比)
①一般廃棄物 4,800 kg	定量契約にて適正処理を行っている			
②産業廃棄物 40,700 kg	39,886 kg	2% 削減	46,880 kg	115.2% (15.2%増加)
※廃プラスチックの 再生率 36,570kg=47%	49%	2% 向上	49,560 kg 58.56%	11.56%向上

＜コメント＞

段ボールのリサイクル・リユース率100%は例年通り達成できた。産業廃棄物（特に廃プラスチック）については廃棄処分を極力抑える様、リサイクルカゴに分別する従来の活動をさらに強化した。リサイクルカゴの改良をはかり、小さなスクラップも抜け落ちることなく入るように手を加え、再生率を向上させる手段をとった。（従来の活動を深化させた）

しかしながら2014年度の産業廃棄物量は、基準年より17.8%増加した。これも売上高25%増の弊害のあらわれと考えられる。排出量だけをみた場合、活動が出来てなかったのかと思ってしまうが、廃プラスチックの再生率は基準年より11.6%向上しており排出量が増えても活動は深化して行われていたことがうかがえる。



各プラスチックごとに分別カゴに入れ再生活動へまわす活動出来る環境作りを施した。

- ・ 2009年12月より、段ボール紙を梱包用資材としてまた緩衝材として再利用（その他段ボール紙は再生業者に委託処理）リサイクル・リユース率100%



〔3〕 水資源使用量の削減

2012年度 1～12月実績	2014年度 年間目標	目標率 (2012年度比)	2014年度実績 (1～12月)	結果 (2012年度比)
991 m ³	971 m ³	1% 削減	1,020 m ³	102.9% (2.9%増加)

<コメント>

節水シールをトイレや給湯室に掲示し、節水に努める様呼びかけ、活動は例年通り継続したのだが、第二工場において洗浄工程が重視される受注が通年においてあった為、使用量は増加した。（昨年から想定内であったが）2015年3月をもってその物件は終了したため、来年度の水使用量は削減が見込まれる。

2009年6月より集水（雨水）タンクを2台設置《自社製作》雨水の有効利用と同時に節水意識の高揚と来客者へ環境保護に良い製品を提供できる会社であることのアピールを図っている。



[4]化学物質使用量の削減

本年度はフロアの塗り替えも少しの面積にとどまったため、化学物質の使用量は大幅に削減できた。今後も本年度同様、まとめ買いをせず、必要な量のみを購入・使用したいと考えます。

2012年度	2014年度 年間目標	目標率	2014年度実績	結果 (2012年度比)
65.14 kg	63.84 kg	2%削減	30.0 kg	46.1% (53%削減)

2012年度使用量の内訳

化学物質名	2012年
キシレン	8.87 kg
1,3,5トリメチルベンゼン	10.56 kg
1,2,4,トリメチルベンゼン	0.36 kg
六価クロム	0.39 kg
鉛	1.96 kg
硫酸鉛	0.59 kg
ナフテンサン鉛	0.1 kg
クロム酸鉛	2.31 kg
(RS)-2-シアノ-N-[(R)- -1-(2,4-ジクロロフェニル)エ チル]-3,3-ジメチルブチラミド (別名ジクロメット)	40 kg
合計	65.1 kg

2013年・2014年の使用量内訳

化学物質名	2013年	2014年
キシレン	64.80 kg	19.87 kg
エチルベンゼン	28.31 kg	9 kg
1,3,5トリメチルベンゼン	0.04 kg	0.09 kg
トリレンジイソシアネート	2.25 kg	1.08 kg
合計	95.4 kg	30.04 kg

[5]グリーン購入（事務用品）

今回のポイントダウンとなった主たる原因は、エコ商品として開発されていない品目の事務用品の購入が多かったためと考える。

2012年度	2014年度目標	2014年度購入データ		結果 (2012年度比)
97.10 %	2%向上	事務用品購入額	203,651 円	89.2%
	(99.1%)	うち、 エコ関連商品額	181,697 円	(7.9%ダウン)

[6]環境保護により製品を提供するためのPR

- ・毎月1回開催される営業会議において、環境にやさしい商品のPRをするよう啓発している

〔7〕 環境保全活動の取組み

①従業員等への教育・訓練の実施

実施時期	教育・訓練内容
2013年9月2日	・ 防災について（火事・地震・竜巻）の勉強会を行った
2013年9月9日	・ 防災訓練を行った（水消火器使用）
2014年9月1日	・ 防災について全体朝礼にて訓示を行った。

<コメント>

今回は、防災について訓示を行うにとどまったが、次回は水消火器を使用し実施訓練を行いたい。



2013年9月9日 防災訓練

②地域の清掃への参加（2009. 9. 1～現在 姫路木工団地内清掃<毎朝>）



2011年9月 被災地の届ける支援物資(タオル・古着など⇒被災地工場用のウエスに…)



V. 環境関連法規の違反、訴訟等の有無

1. 違反、訴訟の有無

当社において、環境関連法の遵守状況をチェックした結果、おおむね環境関連法規の違反はありません。ただ、一部設備において、騒音・振動規制法上の基準レベルを少し上回っているところがあり、現在対策を講じております。また、各関係機関からの違反、訴訟の指摘、外部からの訴訟及び苦情等も過去5年間ありません。

・環境関連法規等の遵法状況

適用される法規	遵守すべき事項	遵守・評価
廃棄物処理法	・ 一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ・廃油等）の適正処理、再利用などによる減量、適正処理方法の情報提供 ・ 廃棄物の収集、処理委託基準の遵守 ・ 産業廃棄物の年間集計と知事報告	遵守
騒音・振動規制法	・ 特定施設（空圧機、真空ポンプ、自動カンナ盤、天井走行クレーン）設置の届出 ・ 騒音・振動規制基準の遵守	騒音対策中
消防法	・ 消防設備（消火器及び消火栓）の定期点検 ・ 火災報知器の設置 ・ 指定可燃物の適正保管（合成樹脂類）	遵守
フロン回収破壊法	・ 業務用空調機のフロンの適正処理	遵守
自動車NOx・PM法	・ ディーゼル車（トラック）排気ガス規制の遵守	遵守
自動車リサイクル法	・ 営業乗用車、トラック等廃棄時の適正処理	廃棄実績なし
家電リサイクル法	・ 廃家電製品の適正処理	廃棄実績なし

VI. 総評と今後の取組について

エコアクション21も今年で6年目を迎えました。
その間、未曾有の大災害となった東日本大震災を経て、国民全体のライフスタイルはまさに転換期を迎えています。国全体が限りある資源やエネルギーを無駄なく効率的に消費していくことが大切ですが、私ども企業レベルでも率先して取り組むべき課題であると考えております。

当社におきましては、最近では従業員個々の環境への意識変革が確実に行動変革につながり、「改善」が事実や数字として表れてきたことが実感できます。
しかし実際に活動を行って初めて発見できた課題や改善点も出て参りました。
今後もそれらの課題に粘り強く継続的に取り組み、将来は姫路において環境経営の模範となる企業になることを目指したいと思っております。



《本社事務所》



《本社工場》